

グローバル社会的経済フォーラム Gsef ダカール大会出席報告

「はたらっく・ざま」のプレゼンテーションを行いました。 2023/5/1~6



「グローバル社会的経済フォーラム

(Gsef)」は、社会的連帯経済を世界中に広めるための国際会議です。この会議の特徴は各国の自治体が主催して、世界中の市民団体が参加し、経験や情報を交換することです。第1回大会は2014年に韓国・ソウルで開催され、2016年カナダ・モントリオール、2018年スペイン・ビルバオ、2021年メキシコ・メキシコシティ(オンライン)、そして第5回となる本大会はアフリカ・セネガルの首都ダカールで開催され、70カ国・250以上の都市から5000人ももの市民が参加しました。

今回「はたらっく・ざま」上田祐子(ワーカーズ・コレクティブ協会理事長)がワークショップでプレゼンテーションを行い、生活クラブグループから計8名が参加しました。

*「はたらっく・ざま」の発表について

ワークショップのテーマは「カナダ・日本・メキシコにおける社会的連帯経済の開発構想、公共政策の協働に関する国境を越えた視点」ということで、日本の実践事例として座間市(自治体)、生活クラブ、ワーカーズ・コレクティブ協会が協働し、就労支援を通じた取り組みについてプレゼンテーションを行いました。発表後、会場参加者とのセッションでは「日本では消費生活協同組合がどうして就労支援に取り組むことになったのか?」と質問を受け、『生活クラブという消費生活協同組合が、組合員の「暮らし・生活」の課題を地域課題と捉え、その解決のためにワーカーズ・コレクティブを生み出し、協同で事業を起こし取り組んできた経過がある』と説明しました。発表の機会を頂い

て頂いたことで、発表者、参加者それぞれが国、文化、言語の壁を越えて社会的連帯経済をどうやって進

めているのかを共有し、自国の活動に活かしていく意義を実感しました。さらに、ダカール大会では、ダカール市(自治体)がGsefを誘致することで国を巻き込むなど政治的な意図もあり、海外でのGsefのダイナミックな動きを目の当たりにしました。セッションの後に、ワークショップのファシリテーターを務めたケバック州モントリオール大学のフォンタン氏から「ぜひ日本でGsefを開催してください!」とメッセージを頂きました。いつか日本でGsefを開催する日が来ることを信じ、今回の経験を神奈川のワーカーズに伝え、活動に活かしていきたいと思えます。

*5月6日の最終日には下記の宣言が発表されました。「(ダカール大会に参加した私たちは)、世界中ですべての人がディーセント・ワークと尊厳をもって生きるために必要な労働と十分な所得を得る権利があることを確認する。住みやすい世界であるためには、不安定さからの解放と、支配的な経済モデルが地球に与える破壊的な影響からの解放が必要である。

私たちはまた、今日、社会的連帯経済が、国連が提唱する社会経済モデルを達成するために最も適した社会経済モデルであることを確認する。そしてまた、社会的連帯経済は、2030年までに国連の持続可能な開発目標を達成するために最も適した社会経済モデルであることを確認するものである。」 (上田 祐子)